取組３　地域防犯の推進

取組の評価　**2.6**　**一部に改善を要する**

＜取組3の基本方針＞
1　地域における防犯活動の支援
2　袋井警察署との連携推進
3　犯罪危険箇所の改善

【取組の目的】 地域や学校、警察などとの連携を深め、市民の力と行政の力を結集して犯罪を抑止する安全な地域社会を構築します。

『取組』に係る社会の動向・本市の現状（主な取組）

《社会の動向》 ◎ 平成25年中の県内の刑法犯の認知件数は、2万9,395件で前年に比べ3,001件（9.3%）減少し、最多件数を記録した平成14年以降11年連続で減少している。しかしながら、子どもに対する声掛け事案や、女性を狙ったわいせつ事案の発生、住宅等への侵入窃盗、高齢者等を狙った振り込め詐欺などは依然として多発しており、「体感治安」については、依然厳しい状態にあるといえる。

《本市の現状》（主な取組）
◎ 市内における刑法犯の認知件数は、平成22年の958件を最多に以降減少し、平成25年には827件であった。このうち、乗り物盗や非侵入窃盗等の「窃盗犯」が607件（73.4％）と、身近な犯罪が多くを占めていることが伺える。
◎ 市では、袋井市防犯対策連絡協議会などの組織を設置し、警察・行政・地域など関係機関が連携を密にし、地域防犯の推進に取り組んでいる。

『取組指標』の分析と評価結果

番号	指標名	項目		H24		H25	
1	スクールガードボランティアの登録者数【人】	目標値		1,507		640	
		実績値		614		561	
		達成率	伸び率	40.7	▲ 26.0	87.6	▲ 8.6
		評価		1		1	
2	犯罪件数【件】	目標値		791		774	
		実績値		842		827	
		達成率	伸び率	93.9	3.7	93.5	1.7
		評価		2		2	
		目標値					
		実績値					
		達成率	伸び率				
		評価					
		目標値					
		実績値					
		達成率	伸び率				
		評価					
		目標値					
		実績値					
		達成率	伸び率				
		評価					
		評価結果の平均値（A）				1.5	

≪評価基準 ≫
4：達成率 ≧ 100%・前年比伸び率 ≧ 0%　3：達成率 ≧ 100%・前年比伸び率 ＜ 0%
2：達成率 ＜ 100%・前年比伸び率 ≧ 0%　1：達成率 ＜ 100%・前年比伸び率 ＜ 0%

≪指標に影響を与えた主な取組、要因 ≫
◎ H25は班内回覧にてSGボランティアを募集。実際の活動者数は潜在的に多く、状況は後退していない。
◎ 警察署が袋井市に存在することが大きな犯罪抑止力に繋がっている。

『取組』の有効性・必要性・緊急性の評価結果

評価項目	H25	備考欄
有効性 4．想定どおりの成果 3．概ね想定どおりの成果 2．一定の成果 1．想定した成果なし	3	◎　スクールガードリーダーが市内の全小中学校を定期的に巡回し、指導することで、すべての地域において、年間を通した児童の安全が図られており、不審者に対する児童の意識が年々高まり、不審者情報の提供にもつながっている。 ◎　地域住民らによる防犯活動は啓発活動やパトロール等が中心であるが、本市では犯罪の認知件数のうち、乗り物盗や非侵入窃盗等の身近な犯罪が多くを占めているため、防犯パトロール等は効果として有効と考えられる。
必要性 4．極めて高まっている 3．高まっている 2．一定程度高まっている 1．高まっていない	3	◎　地域防犯の推進にあっては、地域住民が防犯を人任せにせず、自ら目を光らせ取り組むことの効果が大きい。 ◎　地域の自主的なボランティアで行っている青色回転灯パトロールも原油高の影響を受けるなど、地域の自助だけでは難しい面もあるため、警察と行政と地域が、それぞれの役割を明確にしながら、一体となって連携していく必要がある。
緊急性 4．極めて高まっている 3．高まっている 2．一定程度高まっている 1．高まっていない	3	◎　犯罪は起きてからでは遅いため、「犯罪を起こさせない環境づくり」が大切であり、パトロール強化や防犯意識の高揚など、様々な防犯対策を講じることが、抑制効果を生んでいる。 ◎　ＩＴ社会の進展による新しい犯罪や、高齢者を狙った犯罪の急増などに対して、市民・企業・学校・行政など様々な組織の連携を、袋井警察署を中心に強化し、防犯対策への対処を図ることで、安全な地域社会を構築していくことが求められる。
評価結果の平均値（C）	3.0	

『主要事業』に係る事業評価表の評価結果

番号	主要事業名	事業評価表の評価結果 有効性（4．極めて有効 3．有効 2．一部有効でない 1．有効でない）	効率性（4．極めて効率的 3．効率的 2．一部効率的でない 1．効率的でない）	廃止の影響（4．極めて影響あり 3．影響あり 2．どちらでもない 1．なし又は代替手法あり）
1	防犯推進協会運営補助事業	4	4	4
2	防犯灯整備事業（自治会間）	3	3	4
3	防犯灯設置補助事業（自治会内）	4	3	4
4	防犯対策推進事業	3	3	4
5	スクールガード事業	3	3	3
6	消費者啓発事業	4	4	4
7	消費生活相談事業	4	4	4
8	消費者団体支援事業	4	4	4
9	消費生活モニター運営事業	1	1	1
	評価結果の平均値（B） 3.4	3.3	3.2	3.6

『取組』の総合評価と今後の展開方向

取組の評価					
2.6	一部に改善を要する	各評価結果の平均値	取組指標の評価結果（A）	有効性等の評価結果（C）	主要事業の評価結果（B）
			1.5	3.0	3.4

≪ 評価基準 ≫
4 ～ 3.6：順調　3.5 ～ 3：概ね順調
2.9 ～ 2 ：一部に改善を要する　1.9 ～ 1 ：全体的に改善を要する

番号	取組の基本方針	H24	H25	今後の展開方向
1	地域における防犯活動の支援	⤴	→	地区安全会議やスクールガードボランティア、青色回転灯防犯パトロール等、引き続き地域の積極的な防犯活動を支援し、組織強化と情報の共有化を図っていくとともに、防犯活動を担っている組織会議の代表者による連絡会議の中で情報共有や意見交換を行うことで、各地区のさらなる防犯活動の推進を図っていく。
2	袋井警察署との連携推進	→	→	引き続き、袋井警察署に警察改革の一環で設けられた「警察署協議会」により、警察力の維持・向上を図るとともに、業務へ住民要望や不審者情報、地域内の危険箇所など地域の安全に必要な各種情報を反映させるなど、各機関の連携を推進していくことで、効果的な防犯活動に繋げていく。
3	犯罪危険箇所の改善	→	→	防犯灯の設置については、自治会からの要望箇所に加え、自治会への防犯灯設置費補助事業では設置されないような、家屋がない集落間の通学路等の危険箇所についても、地域の要望等を受けて市で設置するなど、引き続き、犯罪が起きにくい環境づくりを促進していく。

≪ 展開方向 ≫　拡充（順調） ⤴　拡充（改善必要） ⤴　継続推進 →　縮小 ↘